

# 全 学 共 通 科 目 一 覧 表

## 《 旧 科 目 一 覧 表 》

科目群	1年次		2年次		3年次		4年次	
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位
人間と文化	心 理 学	4	哲 学	4				
	日 本 史	4	倫 理 学	4				
	東 洋 史	4	言 語 学	4				
	西 洋 史	4						
	文 学	4						
	音 楽	4						
社会と交流	法学(日本国憲法)	4	政 治 学	4				
	地 理 学	4	社 会 学	4				
	教 育 学	4	女 性 学	4				
自然といのち	物 理 学	4	統 計 学	4				
	生 物 学	4	化 学	4				
	地 学	4	コンピュータ処理論A	2				
			コンピュータ処理論B	2				
言語と異文化交流	英 語 I	2						
	英 語 II	2						
	第 二 外 国 語 I	2						
	第 二 外 国 語 II	2						
			英 語 III	2				
			英 語 IV	2				
			第 二 外 国 語 III	2				
			第 二 外 国 語 IV	2				
			(第三外国語I・IIを含む)					
			国 際 文 化 論 I	2	英 語	V	2	
			国 際 文 化 論 II	2	英 語	VI	2	
			国 際 文 化 論 III	2	第 二 外 国 語	V	2	
			国 際 文 化 論 IV	2	第 二 外 国 語	VI	2	
				国 際 文 化 論	V	2		
				国 際 文 化 論	VI	2		
				( 第 三 外 国 語 I ~ IV を 含 む )				
健康とスポーツ	生 涯 ス ポ ー ツ I	1						
	生 涯 ス ポ ー ツ II	1						
			健 康 管 理 実 習					1
			健 康 科 学 I	2	健 康 科 学	III	2	
		健 康 科 学 II	2					
総合と深化					情 報 科 学	4		
					平 和 論	4		
					環 境 科 学	4		
					教 養 特 殊 講 義 I	4		
					教 養 特 殊 講 義 II	廃止		
					教 養 特 殊 講 義 II A	2		
					教 養 特 殊 講 義 II B	2		
		テ ー マ 研 究	4	海 外 教 養 科 目	4			

注) セメスター制導入による科目名変更については、P.86の「全学共通科目新旧対照表」を必ず参照して下さい。

《新科目一覧表》

科目群	1年次		2年次		3・4年次		
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	
人間と文化	心理学	A	2	哲学	A	2	
	心理学	B	2	哲学	B	2	
	日本史	A	2	倫理	A	2	
	日本史	B	2	倫理	B	2	
	東洋史	A	2	言語	A	2	
	東洋史	B	2	言語	B	2	
	西洋史	A	2				
	西洋史	B	2				
	文学	A	2				
	文学	B	2				
社会と交流	音楽	A	2	政治学	A	2	
	音楽	B	2	政治学	B	2	
	憲法	A	2	社会学	A	2	
	憲法	B	2	社会学	B	2	
	経済学	A	2	社会学	A	2	
	経済学	B	2	社会学	B	2	
	地理学	A	2	女性学	A	2	
	地理学	B	2	女性学	B	2	
自然といのち	数学	A	2	統計学	A	2	
	数学	B	2	統計学	B	2	
	物理学	A	2	化学	A	2	
	物理学	B	2	化学	B	2	
	生物	A	2	コンピュータ処理論	A	2	
	生物	B	2	コンピュータ処理論	B	2	
	生体	A	2				
	生体	B	2				
言語と異文化交流	(再)英語	A	2				
	(再)英語	B	2				
	第二外国語基礎	A	2	英語Ⅲ	2		
	第二外国語基礎	B	2	英語Ⅳ	2		
				第二外国語Ⅲ	2		
				第二外国語Ⅳ	2		
				(第三外国語Ⅰ・Ⅱを含む)			
				国際文化論Ⅰ	2	英語Ⅴ	2
				国際文化論Ⅱ	2	英語Ⅵ	2
				国際文化論Ⅲ	2	第二外国語Ⅴ	2
			国際文化論Ⅳ	2	第二外国語Ⅵ	2	
					国際文化論Ⅴ	2	
					国際文化論Ⅵ	2	
					(第三外国語Ⅰ～Ⅳを含む)		
健康とスポーツ	(生涯スポーツⅠ・Ⅱに代わる科目として) 個人スポーツA・B、チームスポーツA・B、フィットネスA・B、(シーズンスポーツA・B)、(障害者スポーツA・B)のいずれかを組み合わせて選択	各1					
	健康			実習		1	
			健康科学A	2	健康科学Ⅲ	2	
総合と深化			健康科学B	2			
					情報科学A	2	
					情報科学B	2	
					平和論A	2	
					平和論B	2	
					環境科学A	2	
					環境科学B	2	
					養育マ講義A	2	
					養育マ講義B	2	
					養育マ講義C	2	
				養育マ講義D	2		
		テマ研究	廃止	海外教養科目	4		

# 全 学 共 通 科 目 新 旧 対 照 表

科目群	旧科目名		配当年次	新科目名	
	全学共通科目	単位数		2003年度対応科目	単位数
人間と文化	哲学	通年4	2	哲学A・B	各半期2
	倫理学	通年4	2	倫理学A・B	各半期2
	心理学	通年4	1	心理学A・B	各半期2
	日本史	通年4	1	日本史A・B	各半期2
	東洋史	通年4	1	東洋史A・B	各半期2
	西洋史	通年4	1	西洋史A・B	各半期2
	文学	通年4	1	文学A・B	各半期2
	音楽	通年4	1	音楽A・B	各半期2
	言語学	通年4	2	言語学A・B	各半期2
社会と交流	法学(日本国憲法を含む)	通年4	1	日本国憲法・法学	各半期2
	政治学	通年4	2	政治学A・B	各半期2
	社会学	通年4	2	社会学A・B	各半期2
	地理学	通年4	1	地理学A・B	各半期2
	教育学	通年4	1	教育学A・B	各半期2
	女性学	通年4	2	女性学A・B	各半期2
自然といのち	統計学	通年4	2	統計学A・B	各半期2
	物理学	通年4	1	物理学A・B	各半期2
	化学	通年4	2	化学A・B	各半期2
	地学	通年4	1	地学A・B	各半期2
	生物学	通年4	1	生物学A・B	各半期2
言語と異文化交流	ドイツ語Ⅰ	通年2	1	ドイツ語基礎A	通年2
	ドイツ語Ⅱ	通年2	1	ドイツ語基礎B	通年2
	ロシア語Ⅰ	通年2	1	ロシア語基礎A	通年2
	ロシア語Ⅱ	通年2	1	ロシア語基礎B	通年2
	フランス語Ⅰ	通年2	1	フランス語基礎A	通年2
	フランス語Ⅱ	通年2	1	フランス語基礎B	通年2
	中国語Ⅰ	通年2	1	中国語基礎A	通年2
	中国語Ⅱ	通年2	1	中国語基礎B	通年2
健康とスポーツ	生涯スポーツⅠ 生涯スポーツⅡ	各半期1	1	個人スポーツA	半期1
				個人スポーツB	半期1
				ティームスポーツA	半期1
				ティームスポーツB	半期1
				フィットネスA	半期1
				フィットネスB	半期1
				シーズンスポーツA	半期1
				シーズンスポーツB	半期1
				障害者スポーツA	半期1
	障害者スポーツB	半期1			
健康科学Ⅰ・Ⅱ	各半期2	2	健康科学A・B	各半期2	
総合と深化	環境科学	通年4	3・4	環境科学A・B	各半期2
	情報科学	通年4	3・4	情報科学A・B	各半期2
	平和論	通年4	3・4	平和論A・B	各半期2
	教養特殊講義Ⅰ	通年4	3・4	教養テーマ講義A・B	各半期2
	教養特殊講義ⅡA・ⅡB	各半期2	3・4	教養テーマ講義C・D	各半期2

注) この表に掲載されていない科目は、従来通りの科目名で開講されます。

## 全学共通科目の履修上の留意点

私たちは、国際化・情報化・個性化の進む変化の激しい社会に生きています。

これらに対応するためには、高度な専門的知識を身につけるとともに、幅広い知識・的確な判断力・応用力を養っておくことが必要です。

より善きもの・より正しきもの・より美しきものを求めて向上を目指す人間性に富み、かつ社会の変化に対応できる人材を育成するためには、専門教育とともに教養教育は大学教育の大切な柱の一つなのです。

こうした教育目標を追求するため、教養教育を画一化せず、「広くて多彩な科目群履修」と「まとまりのあるコース履修」という2つの履修方法から選択できるようにしました。それぞれの趣旨・特色を参考にしつつ、自身の判断に従っていずれかの履修方法を選び、全学共通科目を修得しましょう。

**(1) カリキュラム構成と必要単位**

2年次において「広くて多彩な科目群履修」か「まとまりのあるテーマ履修」のいずれかを選択します。

「広くて多彩な科目群履修」を選んだ場合は、登録手続きの必要はありません。

「まとまりのあるテーマ履修」を選んだ場合は、次ページを参照して下さい。

**(2) 広くて多彩な科目群履修**

6つの科目群から幅広く科目を履修することにより、バランスのとれた総合的教養を身につける。

必要単位

科 目 群	必 要 単 位	卒業所要単位	
人 間 と 文 化	8単位選択	8単位	
社 会 と 交 流	4単位選択	12単位	
自 然 と い の ち	4単位選択		
言 語 と 異 文 化 交 流	英 語 I・II	4単位必修	4単位
	第 二 外 国 語 I・II	4単位必修	
	英 語 III・IV	4単位選択 (※第三外国語I・IIを含む)	4単位
	第 二 外 国 語 III・IV		
	英 語 V・VI	4単位選択 (※第三外国語I～IVを含む)	4単位
	第 二 外 国 語 V・VI		
国 際 文 化 論 I～VI			
健 康 と ス ポー ツ	生 涯 ス ポー ツ I	1単位必修	4単位
	生 涯 ス ポー ツ II	1単位選択	
	健 康 管 理 実 習		
	健 康 科 学 I～III	2単位選択	
総 合 と 深 化	4単位選択	4単位	
卒 業 所 要 単 位		44単位	

(3) まとまりのあるテーマ履修  
(教養テーマ履修)

各コースごとに掲げられた学習目標に従い、まとまりのある全学共通科目群を履修することによって「知のコア」を身につける。

下記のコースのうち1つを選択し、各コース指定科目から、各コースの履修規程に従い22単位(1999年度以前入学生は28単位)を履修する。それ以外は全学共通科目から自由に選択して、合計44単位を取得する。

①情報テーマ

日常の生活の中で、量的にも質的にも拡大しつづける情報を正しく読み取り、自らの問題解決によりよく活用できる能力を高めるとともに、情報発信者としての主体性の確立もめざす。このため、情報処理技術の修得だけでなく歴史的・社会的背景の理解を深めることのできるよう、教材構成にも配慮していく。

基礎が分かればマルチメディアなんて怖くない。世界中の図書館が君のディスプレイの中にやってくる。

区分	2000・2001年度入学生		必要単位	1998・1999年度入学生		必要単位
テーマ指定科目	必修	テーマ研究、情報科学A・B	8	テーマ研究、情報科学A・B		8
	選択必修	コンピュータ処理論A・B 統計学A・B 教養テーマ講義A・B 教養テーマ講義C・D 言語学A・B 数学A・B 経済学A・B	14	コンピュータ処理論A・B 統計学A・B 教養テーマ講義A・B 教養テーマ講義C・D 言語学A・B 数学A・B 経済学A・B		20
選択		全学共通科目より自由に選択(経済学A・Bと数学A・B修得せず)	22	全学共通科目より自由に選択(経済学A・Bと数学A・B修得せず)		16
		全学共通科目より自由に選択(経済学Aのみ修得)	24	全学共通科目より自由に選択(経済学Aのみ修得)	18	
		全学共通科目より自由に選択(経済学Bのみ修得)		全学共通科目より自由に選択(経済学Bのみ修得)		
		全学共通科目より自由に選択(数学Aのみ修得)		全学共通科目より自由に選択(数学Aのみ修得)		
		全学共通科目より自由に選択(数学Bのみ修得)		全学共通科目より自由に選択(数学Bのみ修得)		
		全学共通科目より自由に選択(経済学A・Bのみ修得)	26	全学共通科目より自由に選択(経済学A・Bのみ修得)	20	
		全学共通科目より自由に選択(数学A・Bのみ修得)		全学共通科目より自由に選択(数学A・Bのみ修得)		
	全学共通科目より自由に選択(経済学AまたはBと数学AまたはBを修得)	全学共通科目より自由に選択(経済学AまたはBと数学AまたはBを修得)				
	全学共通科目より自由に選択(経済学A・Bと数学AまたはBを修得)	28	全学共通科目より自由に選択(経済学A・Bと数学AまたはBを修得)	22		
	全学共通科目より自由に選択(数学A・Bと経済学AまたはBを修得)		全学共通科目より自由に選択(数学A・Bと経済学AまたはBを修得)			
	全学共通科目より自由に選択(経済学A・Bと数学A・Bを修得)	30	全学共通科目より自由に選択(経済学A・Bと数学A・Bを修得)	24		

②英 語 テ ー マ

多くの英文例を集め、これらをコンピュータを使って比較考察し、語彙・用法などを学習する。これは記述的・機能的外国語（英語）学習法といってよい。また、単語や語法から、それが使われている文章や文脈を検索・整理できるので、刺激のある学習と密度の高い学習ができる。また将来英語を活用できるように英作文法の基礎も修得する。

辞書や文例集などは電子化されており、初級から上級まで個々の学生の学力に応じた個人指導ができる。辞書引きなど、学習したことをワープロに取り込むことができるので、レポートなどが作成しやすくなる。

区分	2000・2001年度入学生	必要 単位	1998・1999年度入学生	必要 単位	
テーマ指定科目	必修	テーマ研究、英語Ⅰ～Ⅳ	12	テーマ研究、英語Ⅰ～Ⅵ	16
	選択必修	英語Ⅴ・Ⅵ	2	教養テーマ講義A・B 教養テーマ講義C・D  コンピュータ処理論A・B 西洋史A・B 言語学A・B 国際文化論Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ	4
		教養テーマ講義A・B 教養テーマ講義C・D (英語教員担当科目)	4		
		コンピュータ処理論A・B 西洋史A・B 言語学A・B 国際文化論Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ	4		
選 択	全学共通科目より自由に選択	22	全学共通科目より自由に選択	16	

③中 国 語 テ ー マ

大学ではじめて第二外国語として学ぶ中国語を、より広く、より深く学ぶためのテーマである。将来、中国語を活用できるようになるための十分な基礎学力の養成をはかる。言語の学習を主とするが、その中で関連して歴史、社会、文学などについても理解を深めるようにする。

区分	2000・2001年度入学生	必要 単位	1998・1999年度入学生	必要 単位	
テーマ指定科目	必修	テーマ研究、中国語Ⅰ～Ⅳ	12	テーマ研究、中国語Ⅰ～Ⅵ	16
	選択必修	中国語Ⅴ・Ⅵ	2	教養テーマ講義A・B 教養テーマ講義C・D 東洋史A・B 国際文化論Ⅱ・Ⅳ・Ⅵ (中国語教員担当科目)	12
		教養テーマ講義A・B 教養テーマ講義C・D } (中国語教員担当科目)	8		
		東洋史A・B 国際文化論Ⅱ・Ⅳ・Ⅵ (中国語教員担当科目)			
選 択	全学共通科目より自由に選択	22	全学共通科目より自由に選択	16	

(4) セメスター制導入  
にともなう変更

2003年度より在学生の皆さんにもセメスター制が適用されることになりました。それ  
にともなう変更について以下に説明いたします。

**科目名**

従来の通年科目の多くは2つに分割され科目の名称が変更されます。各冊子の新旧対  
照表等においては、2つの科目名を併記することになりますが、その場合は同じ科目であ  
ることを理解して下さい。

(例)

対象	春学期 (前期)	秋学期 (後期)
従来	哲学	
2003年度以降	哲学A	哲学B

**単位認定**

今までは、通年4単位の科目が主流でしたが、セメスター制導入に伴い、在学生の履修  
する科目も半期2単位が基本となります。上記の例でいえば、「人間と文化の科目群」が  
4単位選択必修とすると、「哲学A (2単位)」と「哲学B (2単位)」で充足することもでき  
ますし、「哲学A (2単位)」と「心理学A (2単位)」等の組み合わせでもかまいません。

一方、既に「哲学 (4単位)」を修得済みの場合は、「哲学A (2単位)」と「哲学B (2単  
位)」を履修することはできません。

(5) 不開講科目  
履修者数制限

履修希望者が極端に少ない場合、科目によっては、年度始めに担当教員と履修者との  
合意のうえで、その年度の授業を不開講とすることがあります。また、履修希望者が多  
すぎて講義に支障をきたす場合は、履修者数の制限を行うこともあります。各学期の初回  
の授業には必ず出席し、担当教員の説明をよく聞いて下さい。

(6) 人間と文化の科目群  
[日本史、東洋史、西洋史]

この3科目については、「3科目中1科目までを卒業所要単位に算入可能」との制限を  
撤廃します。よって、履修した科目は全て卒業所要単位に算入されます。

(7) 自然といのちの  
科目群  
[コンピュータ処理論A・B]

この科目は履修者数制限科目です。履修希望者が多数の場合は自動的に抽選が行  
われ、履修が許可された場合は「履修時間割表」に科目名が表示されますので、初回の授  
業には必ず出席して下さい。詳細については履修・学生生活ガイダンスと掲示で連絡し  
ます。

(8) 言語と異文化交流の  
科目群  
[英 語]

英語はⅢ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵが開講されています。  
・英語Ⅲ・Ⅳを履修する場合は、英語Ⅰ・Ⅱを修得済みか、当該年度で履修登録してい  
なければなりません。  
・英語Ⅴ・Ⅵを履修する場合は、英語Ⅰ・Ⅱを修得済みか、当該年度で履修登録してい  
なければなりません。また、極力英語Ⅲ・Ⅳを履修登録して下さい。

[再履修について]

[英語Ⅰ・Ⅱの再履修について]  
・再履修については再履修クラスが設けられますので、必修の英語Ⅰ・Ⅱが未修得の場  
合は、「(再) 英語」を履修して下さい。  
・再履修にあたっては、「事前登録」が必要です。履修方法については、履修・学生生活  
ガイダンスおよび掲示板で連絡します。指示に従って再履修の申込み (事前登録) を  
行って下さい。  
・再履修の申込み (事前登録) は先着順で行い、各クラス定員になり次第締め切ります。  
※復学者・編転入学者は、教務課窓口へ申し出て下さい。

## 〔第二外国語〕

第二外国語はドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語が開講されています。

- ・第二外国語Ⅲ・Ⅳを履修する場合は、第二外国語Ⅰ・Ⅱを修得済みか、当該年度で履修登録していなければなりません。また、第二外国語Ⅴ・Ⅵを履修する場合は、第二外国語Ⅰ・Ⅱと、ⅢまたはⅣのいずれかを修得済みか、当該年度で履修登録していなければなりません。
- ・履修にあたっては、必ず初回の授業に出席して下さい。「第二外国語Ⅵ」を履修する場合は必ず教務課窓口にて相談して下さい。

## 〔再履修について〕

## 〔第二外国語Ⅰ・Ⅱの再履修について〕

再履修については、2003年度入学生から実施の新カリキュラムへの移行にともなって、第二外国語Ⅰ・Ⅱの再履修の方法が変更になります。従来の科目名称は、「学科目時間割表」上には表示されません。再履修が必要な科目に対応する新カリキュラム名称の科目を履修して下さい。成績表上には、新カリキュラム名称の科目名で表示されます。

- ・再履修は、1年次に履修した外国語と同一の外国語でなければなりません。
  - ・再履修にあたっては、「事前登録」が必要です。履修方法については、履修・学生生活ガイダンスおよび掲示板で連絡します。指示に従って再履修の申込み（事前登録）を行って下さい。
  - ・再履修は、原則として自分の所属する学部で履修して下さい。但し、時間割の都合で不可能な場合は、他学部で履修することもできます。
  - ・再履修の申込み（事前登録）は先着順で行い、各クラス定員になり次第締め切ります。
- ※復学者・編転入学者は、教務課窓口へ申し出て下さい。

## 〔第三外国語〕

1年次で履修した英語と第二外国語以外に、2年次以降に3つ目の外国語Ⅰ～Ⅵを修得して〈言語と異文化交流の科目群〉または〈フロート単位〉として卒業所要単位の一部とすることもできます。

第三外国語Ⅰ・Ⅱを履修する場合は、第二外国語Ⅰ・Ⅱを両方修得済みでなければなりません。第三外国語Ⅲ・Ⅳを履修する場合は、第三外国語ⅠまたはⅡを修得済みか当該年度で履修登録していなければなりません。

第三外国語Ⅴ・Ⅵを履修する場合は、第三外国語ⅢまたはⅣを修得済みか当該年度で履修登録していなければなりません。

※入学時に決定した第二外国語が履修困難である事を理由に、途中からそれ以外の外国語に乗り換えることはできません。

## 〔第三外国語の履修申込みについて〕

第三外国語Ⅰ～Ⅵの履修希望者は、以下の手順で履修の申込みを行って下さい。

- ①教務課窓口で「第三外国語申込カード」を受け取り、必要事項を記入する。
  - ②履修を希望するクラスの初回授業に出席し、担当教員から履修の許可を得る。（申込カードに担当教員の承諾サインをもらい、「担当教員控」を教員に渡す。）
  - ③申込カードの「教務課控」を切り離して教務課に提出し、教務課で履修登録を行う。
- ※担当教員の許可を得ずに履修登録した場合は、単位が認定されません。また、希望するクラスの履修者数が多い場合には、履修できないことがあります。

## 〔国際文化論〕

必ず初回の授業に出席して下さい。



(9) 健康とスポーツの  
科目群

「生涯スポーツⅠ・Ⅱ、  
健康管理実習」

「生涯スポーツⅠ(1単位)」は必修、さらに「生涯スポーツⅡ(1単位)」または「健康管理実習(1単位)」のうちいずれか一方が必修です。“未修者”は、下記に従って開講科目を修得して下さい。

未修科目	開講科目	修得可
生涯スポーツⅠ 生涯スポーツⅡ	(春) 個人スポーツA	このうち生涯スポーツⅠ・Ⅱに充てる、2科目2単位までしか修得できません。
	(秋) 個人スポーツB	
	(春) ティームスポーツA	
	(秋) ティームスポーツB	
	(春) フィットネスA	
	(秋) フィットネスB	
	(春) シーズンスポーツA	
	(秋) シーズンスポーツB	
	(春) 障害者スポーツA	
	(秋) 障害者スポーツB	
健康管理実習	(春)(秋) 健康管理実習	1科目1単位

履修制限

- ①各種スポーツ科目および健康管理実習は履修者数制限を行います。
- ②科目名(A・Bの別)が異なる科目は履修可能ですが、同科目名で異なる種目は履修できません。
- ③春学期・秋学期ともに一度履修決定した種目および曜日・時限は変更できません。

履修方法

【春学期の履修方法】

履修届に履修登録コードを記入せず、開講日に掲示板で受入可能な曜日・時限・種目を確認の上、初回の授業に体育館(アリーナ)へ普段着で集合して担当者の指示を受けて下さい。その際、必ず「生涯スポーツⅠ・Ⅱ」または「健康管理実習」の再登録であることを伝えて下さい。

【秋学期の履修方法】

6月初旬に学部掲示板で履修方法を案内します。1年次～4年次が対象です。

「健康科学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」

半期2単位の講義科目です。卒業までに1科目(2単位)が必修です。下表に従って修得して下さい。

未修科目	開講科目	修得可能科目数
健康科学Ⅰ	(春) 健康科学A	このうち1科目2単位必修 ※複数科目修得可
健康科学Ⅱ	(秋) 健康科学B	
健康科学Ⅲ	本年度不開講	

## (10) 総合と深化の科目群

「教養特殊講義Ⅰ」

「教養特殊講義Ⅰ」は、2003年度はⅠAとⅠBに分割して開講、2004年度以降は教養テーマ講義A・Bとして開講します。

「教養特殊講義Ⅱ」

「教養特殊講義Ⅱ」は2003年度以降開講されません。ただし、「教養特殊講義ⅡA、ⅡB」は2004年度以降は教養テーマ講義C・Dとして開講します。

「海外教養科目」

- ① ISEP加盟大学、および中京大学海外交流協定大学へ交換留学生として選抜派遣された学生が留学先大学で取得した単位については、原則として全学共通科目にある科目に読み替えてこれを認定します。(成績表上には「N」として認定されます)
- ② 上記読み替えがきかない科目の中で、教養部が認めた科目については、全学共通科目の「海外教養科目」として認定します。
- ③ 「海外教養科目」として認定できる単位は4単位までとし、1または3単位などの分割認定も認めます。

## (11) まとまりのあるテーマ履修(教養テーマ)

テーマ離脱

テーマ離脱とは、3年次以降に「まとまりのあるテーマ履修」をやめ、「広くて多彩な科目群履修」に移ることです。

〈離脱方法〉

- ① 「テーマ離脱願」を教務課で受け取る。
- ② 4月の履修登録期間内に、テーマ責任者へ提出し、面談の上、離脱の承認を受ける。
  - ・ 4月の履修登録期間(履修登録期間内)を過ぎた後のテーマ離脱はできません。
  - ・ テーマを離脱した場合、2年次に「テーマ研究」の単位を既に修得していても、その単位は卒業所要単位としては認定されません(フロート単位にも換算できません)。